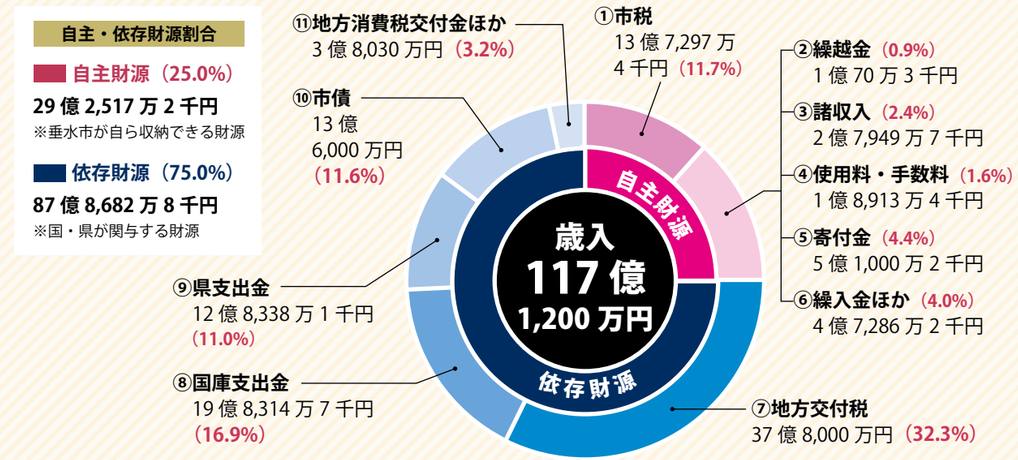
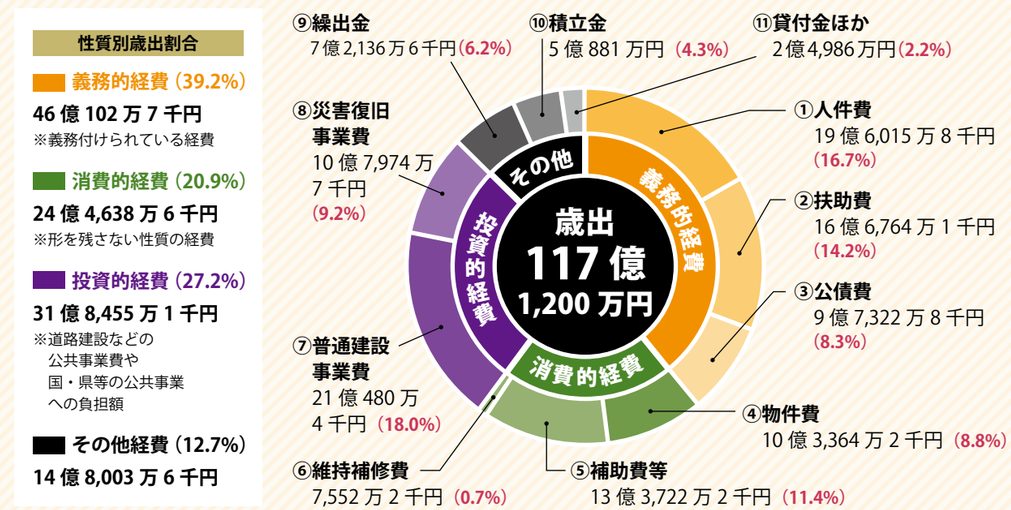
Budget 平成29年度当初予算





1 はじめに

国の予算状況を踏まえ、経済・人口減対策など喫緊の課題を中心に市長政策を優先して予算編成を行いました。

結果、平成29年度の一般会計当初予算の歳入歳出予算の総額は117億1200万円で、前年度に比べ22%の増となっています。

2 歳入（一般会計）

市税は、税収の増加が見込まれることから対前年度比5.4%増の13億7297万4千円を計上し、本市歳入の柱である地方交付税は、平成28年度交付額等を参考に昨年度と同等の37億8000万円を計上しています。また、借金である市債については、昨年の災害復旧が継続することなどにより前年度比55・5%増の13億6000万円を借入れる予定です。財源については十分検討しましたが、それでも一般財源に不足を生じたことから、財政調整基金からの繰入金を1億2000万円計上しています。

3 歳出（一般会計）

「元気な垂水づくり～3つの挑戦」を重点施策とし、それぞれ「経済への挑戦」、「安心への挑戦」、「未来への挑戦」に基づき、前ページでご紹介した各事業などを中心に、予算を配分しました。

性質別にみますと、災害復旧費が昨年の台風16号被害等により前年度比9億1509万7千円（555・8%）の増、普通建設事業費が南の拠点整備事業や垂水中央運動公園改修事業等により前年度比8億468万8千円（61・9%）の増、積立金が主にふるさと応援基金積立金により前年度比3億28万1千円（144%）の増となっています。

市の予算は、これまで解説した一般会計に加え、国民健康保険や地方卸売市場等の8特別会計と水道事業及び病院事業の2事業会計から構成されています。

財政運営においては、ふるさと応援寄附金等による歳入確保、定員適正化計画等による人件費の抑制、市債残高の縮減、財政調整基金の積立金の増など改善を進め財務諸表等の数値は改善されてきました。

しかしながら、本市の財政状況は、地方交付税をはじめとする依存財源の割合が大きく、脆弱な財政構造から脱していないため、今後も弾力的で足腰の強い財政構造を構築し、将来にわたって持続可能な財政基盤の確立を図ってまいります。

以上、私の平成29年度市政に対する所信と重点施策について、申し上げましたが、これからも全力で市政運営に邁進してまいります。

◎歳出を目的別に見る！

目的別	29 年度	28 年度	前年比	主な内容
議会費	1 億 2,052 万円	1 億 2,070 万円	△ 18 万円	市議会運営
総務費	22 億 668 万円	15 億 5,795 万円	+6 億 4,873 万円	総務管理・財産管理・企画・税務事務等
民生費	29 億 7,896 万円	30 億 3,462 万円	△ 5,566 万円	児童・高齢者・障がい者の福祉推進等
衛生費	7 億 4,492 万円	7 億 5,788 万円	△ 1,296 万円	ごみ、し尿の処理や健康増進事業等
農林水産業費	12 億 7,270 万円	7 億 4,208 万円	+5 億 3,062 万円	農業・水産業・林業等の振興等
商工費	1 億 518 万円	1 億 608 万円	△ 90 万円	商工業・観光の振興等
土木費	10 億 8,421 万円	9 億 6,017 万円	+1 億 2,404 万円	道路・公園等整備や維持管理等
消防費	4 億 8,987 万円	4 億 2,642 万円	+6,345 万円	消防活動や救急、消防団活動
教育費	6 億 4,598 万円	6 億 4,546 万円	+52 万円	学校の管理運営・生涯学習の推進等
災害復旧費	10 億 7,975 万円	1 億 6,465 万円	+9 億 1,510 万円	被災箇所の原状復帰のための費用
公債費	9 億 7,323 万円	10 億 7,399 万円	△ 1 億 76 万円	施設整備などで借りたお金の返済
その他	1,000 万円	1,000 万円	0	予備費等
合計	117 億 1,200 万円	96 億円	+21 億 1,200 万円	

◎市民一人あたりの平成 29 年度当初予算（一般会計）

※平成 29 年 2 月末現在
人口 15,540 人で計算

75 万 3,668 円

平成 29 年度一般会計当初予算の 117 億 1,200 万円という数字をイメージしやすいように、市民の皆さん 1 人あたりに相当する歳出額（支出する金額）を算出しました。今年度は、753,668 円 / 人で昨年度の 602,637 円 / 人より、151,031 円の増額となりました。